

日ASEANビジネスウィーク

『転機のASEANと日本 ～中小企業はどう取り組むべきか～』

2023年6月9日

亜細亜大学都市創造学部

後藤康浩

ご質問、お問い合わせは yasug@aol.com へ

ASEANをめぐるグローバル情勢の変化

①米中対立とロシアのウクライナ侵攻

米欧日の「G7ブロック」と「中ロ連携」の対立が先鋭化
難くなるASEAN各国の政治的立ち位置

②世界経済の減速とインフレの持続

金融緩和から引き締めへの転換
エネルギーと食料の高止まり

③中国の高成長期の終わり

少子高齢化、巨額財政赤字、外資製造業の「脱中国」
対中依存度の高いASEANへの打撃

④グローバル・サプライチェーンの再構築と忍び寄る経済安保

1980～90年代以来の工場流動化
進むニアショアリング・フレンドショアリング・先進国回帰

米中対立と中国の高成長の終わり

- 外資の導入で高成長を続けた中国モデルの終わり
 - …中国生産のコスト増、G7の中国包囲網
- 外資のグローバル市場向け生産拠点の「脱中国」
 - ASEAN、インド、バングラデシュなどへの移転
- 残る中国生産拠点到2つの意味
 - 中国国内市場向けの最終製品生産
 - ASEAN、日本、韓国、台湾などへの中間財供給
- ASEANに産業高度化、付加価値向上の大きなチャンス
 - 完成品の産業集積、研究開発拠点

成長潜在力で2分化するASEAN

＜成長楽観国＞ **VIP**=**V**ietnam **I**ndonesia **P**hilippine

- ベトナム・・・政治的安定性、労働力の質、地政学的位置
- インドネシア・・・資源と豊富な労働力、巨大な内需の強み
- フィリピン・・・若く、豊富な労働力と英語力

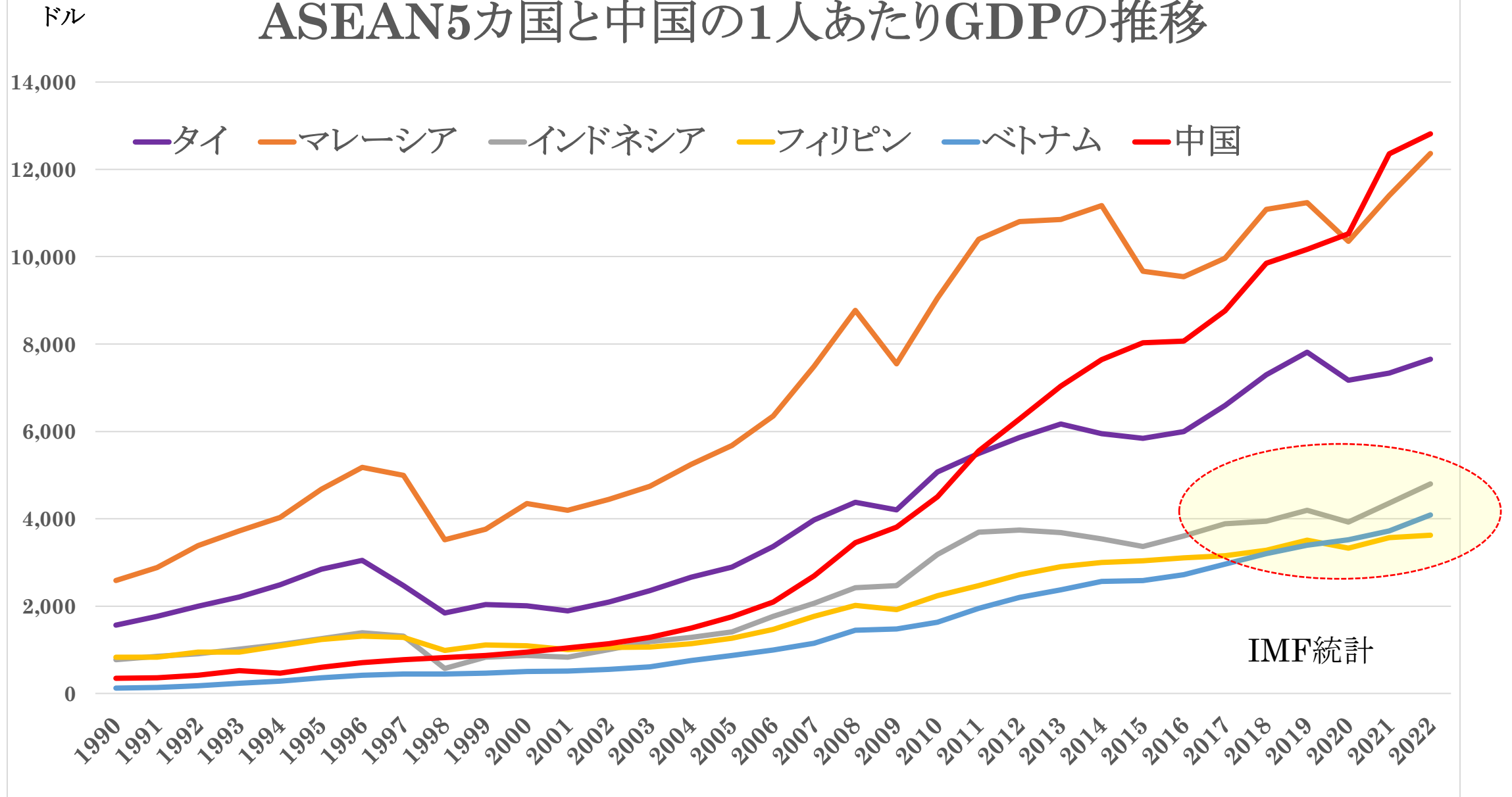
＜成長不安国＞

- 投資不適格国に転落したミャンマー・・・軍政続き外資は緩やかに撤退
- 不安定な政治続き、王政維持にもリスク抱えるタイ
- 中国の影響が懸念されるタイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー

＜中立的評価＞

- シンガポール、マレーシア、ブルネイ

ASEAN5カ国と中国の1人あたりGDPの推移



ICT製品輸出額の推移

UNCTAD統計

億ドル

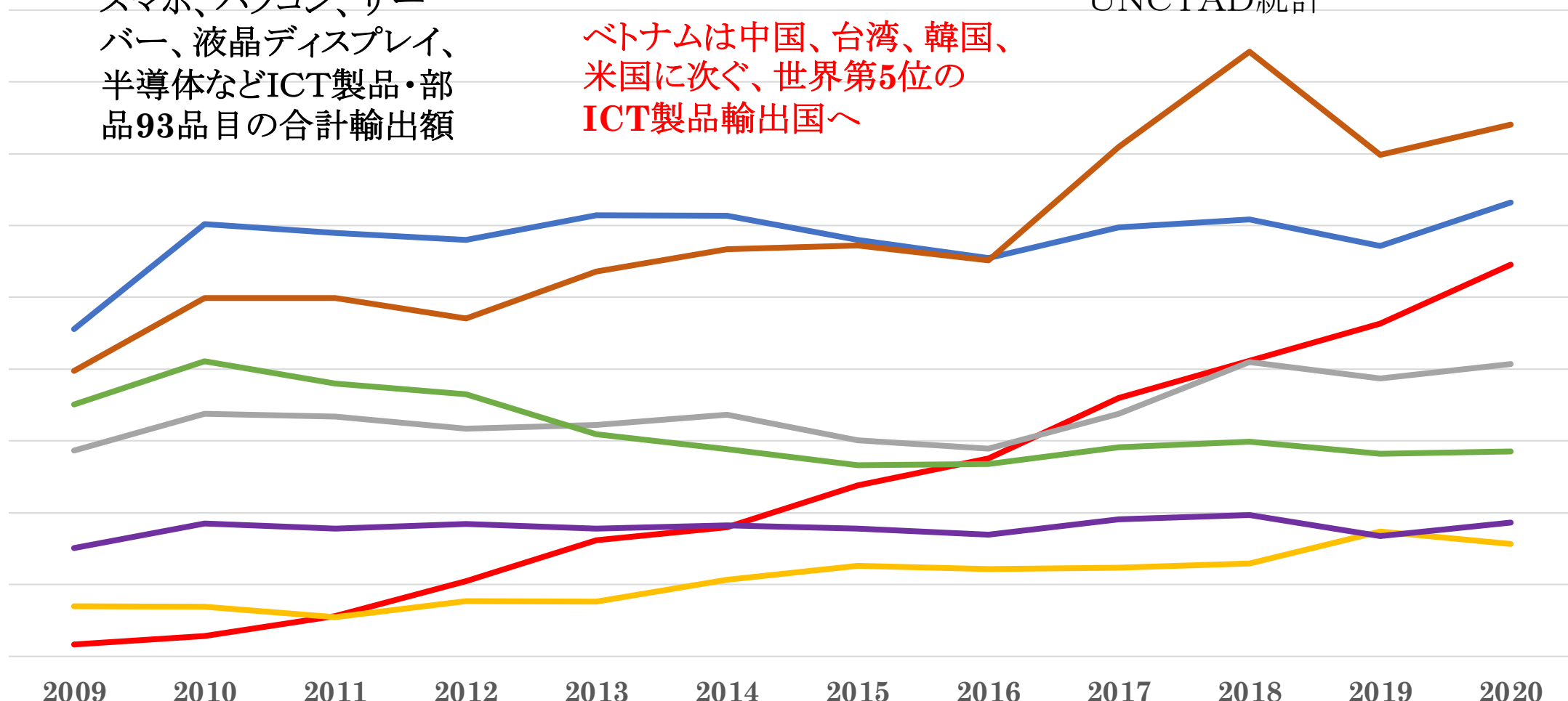
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0

スマホ、パソコン、サーバー、液晶ディスプレイ、半導体などICT製品・部品93品目の合計輸出額

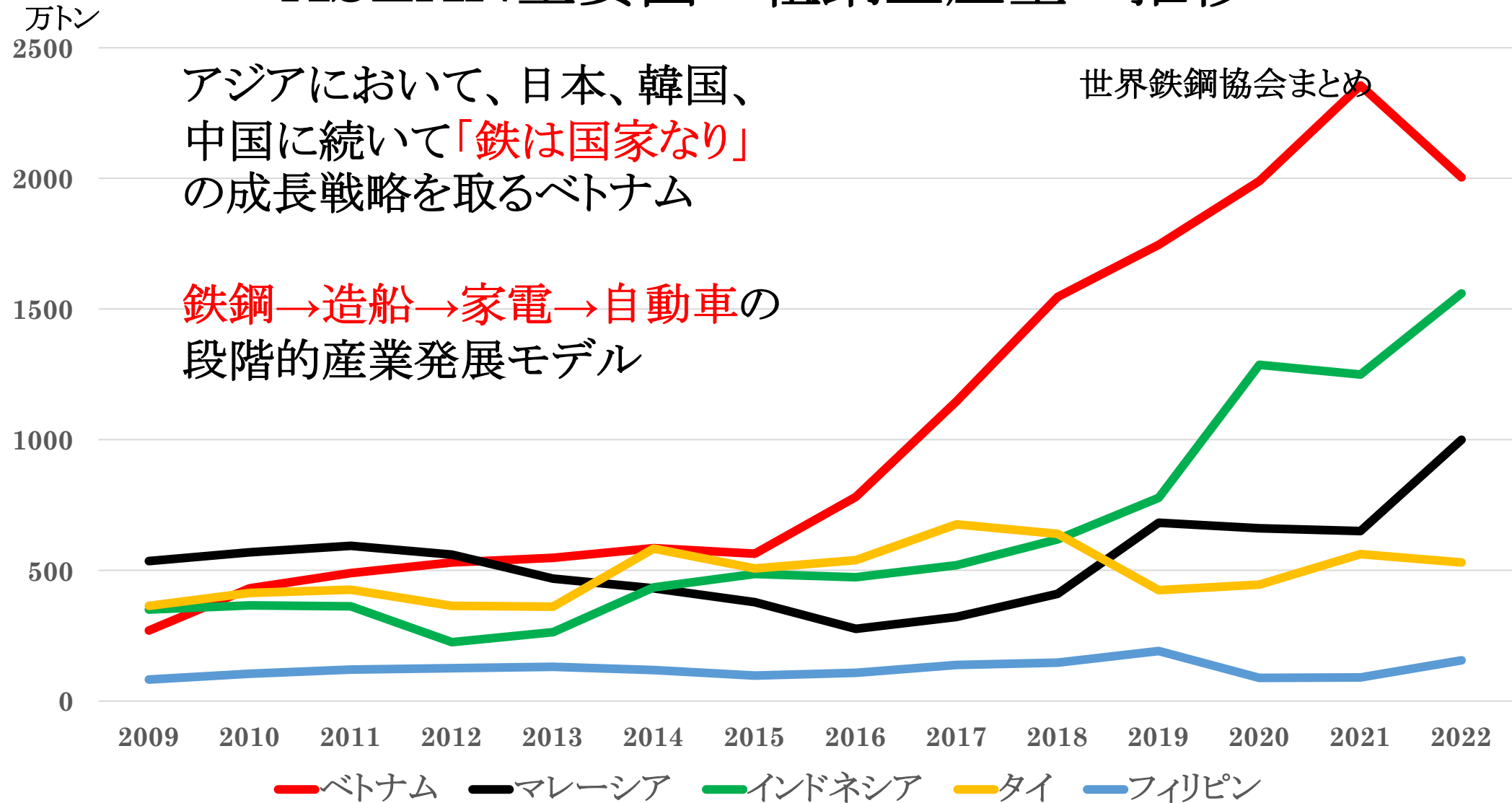
ベトナムは中国、台湾、韓国、米国に次ぐ、世界第5位のICT製品輸出国へ

2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020

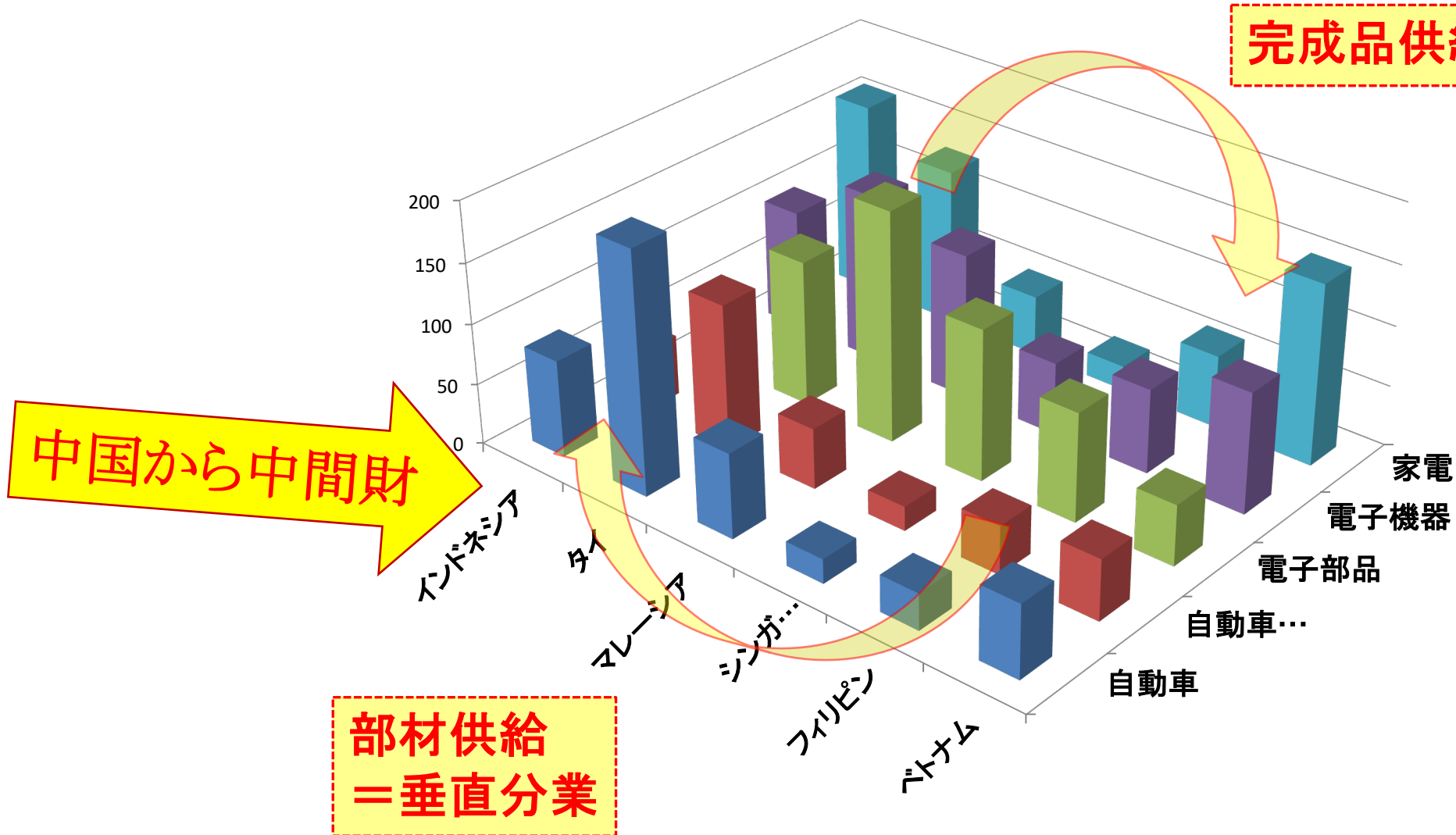
—シンガポール —ベトナム —マレーシア —フィリピン —タイ —日本 —韓国



ASEAN主要国の粗鋼生産量の推移



ASEAN・中国の三次元分業



激変するベトナム



ハノイの高架鉄道



ホーチミンの地下鉄



ベトナム・ビンファスト社
のEV



中小企業にとってのASEANのビジネスチャンス

①部材供給、加工のサプライヤーとして大きな発展余地

→ASEANの新たな産業集積、成長産業の見極めが重要

→三次元分業のどこに入り込むか

②インフラ建設はASEAN後発国で大きな需要を創出

→電力、道路、鉄道、上下水道、住宅、オフィスビル

③Eコマース、SC、CVSなど消費基盤の拡大

→物流倉庫、配送体制

③観光・飲食などサービス産業

→リゾート開発・ホテル・レストラン・・・富裕層外国人向け

ASEAN展開に伴うリスクと回避策

- 政治的・体制的な不安定性
 - ・・・タイ、ミャンマーの将来性への不安
- 中国の「一帯一路」の変質と民間企業の対外進出
 - ・・・中国は投資から資金回収へ
 - 中ロ制裁が拡大すれば、輸出市場を失う恐れ
- 「持たざる経営」で環境変化を回避
 - レンタル工場、最小投資、少数精鋭、システムで対応
- 不透明、不安定なグローバル情勢は今後も続く